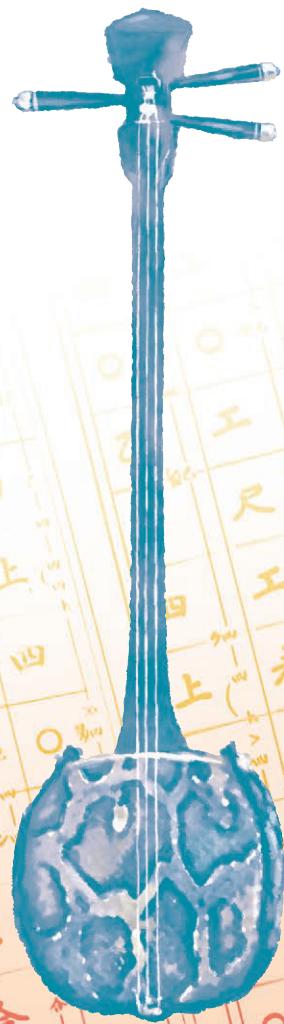


第八回

琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会関東支部創立四十周年記念公演



ご紹介

琉球王国は1429年に統一され、1879年明治政府の廃藩置県によって沖縄県になるまで、独立国として独自の文化を育んできました。早くから中国と冊封関係を結び、王位の交代の度に冊封使を迎えて数か月に及ぶ式典が催されました。冊封使は国王に授ける王冠を携えてきたことから、乗ってきた船を御冠船と呼び、一行をもてなすために催した芸能を「御冠船踊」と称したのです。この御冠船踊の指導監督にあたる踊奉行に任命された玉城朝薰は、江戸上りの経験もあり大和芸能への造詣が深く、新しい歌舞劇「組踊」を生みだします。琉球芸能は国家の重要な行事に組み込まれ、宫廷芸能として芸術性を高めつつ発展しました。

今日、「組踊」と「琉球舞踊」は共に、能・狂言、歌舞伎、文楽同様、国の重要無形文化財に指定されており、「組踊」は平成22年11月にユネスコ無形文化遺産保護条約「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。

出典 国立劇場伝統芸能情報館資料(平成24年)より

INTRODUCTION

The Ryukyu Kingdom developed a distinctive native culture in the years between its unification in 1429 and incorporation into the Japanese state as Okinawa prefecture in 1879. From early on in its history, Ryukyu established a tributary relationship with China, and would welcome 'Sapposhi' envoys from China for several months on the occasion of a succession to the Ryukyu throne. Due to the seal of approval which they bestowed on the new Ryukyu king, the Sapposhi expeditions came to be known as 'ukwanshin' (the ship that brings the crown), and the performing arts that were performed as entertainment for the Chinese envoys came to be known as 'ukwanshin udui' (dances for the crown ship). Tamagusuku Chokun, one of the directors of the ukwanshin performances, developed a new Ryukyuan theatre genre, kumiudui, in 1719, which incorporated his deep knowledge of Japanese performing arts, learned through visits to Edo (Tokyo) and other parts of Japan. Through incorporation into the life of the royal court, Ryukyuan performing arts gradually developed a highly refined artistic sensibility.

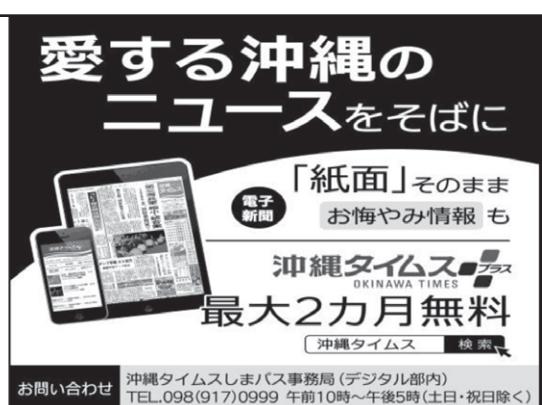
Today, Kumiudui and Ryukyuan Dance have been designated by the Japanese government as Important Intangible Cultural Properties, alongside Noh, Kyogen, Kabuki and Bunraku. In November 2010, Kumiudui was inscribed on the UNESCO Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity.

National Theatre Traditional Performing Arts Information Centre, 2012

祝 第八回琉球古典音楽の会

沖縄タイムス社 東京支社長 具志堅 毅

東京都中央区銀座8-18-1
銀座木挽町ビル6階
☎ 03-6264-7878 FAX 03-6226-1200



第八回 琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会関東支部 創立四十周年記念公演

開局
2時0分
開局
3時

かつしかシンフォニーヒルズ
モーツアルトホール

後

援

東京琉球舞踊協会
東京沖縄県人会
沖縄タイムス社

琉球古典音樂野村

ご挨拶

第八回琉球古典音楽の会 関東支部創立四十周年記念公演に寄せて



琉球古典音楽野村流保存会関東支部
支部長 小西睦子

一九七八年（昭和五十三年）に仲宗根善久先生を中心にして沖縄出身者十四名で創立された琉球古典音楽野村流保存会関東支部は、四十年の歳月を経て、二〇一八年現在で十三研究所、四十名の師範教師をはじめ、総勢百二十名の組織になりました。昨年四月には草創期より私ども三線会員と活動を共にしてきた筝曲会員十七名も、琉球筝曲保存会関東支部として晴れて独立し、新たな道を歩み始めました。関東と沖縄は、歴史、文化、生活習慣において関係の薄い地域です。その遠方の地に、琉球古典音楽という琉球王国時代の宫廷音楽を普及させようと努力された諸先輩方に改めて敬意を表します。

四十年という歳月の意味は、その歩みにおける変遷の一つ一つの断片を考えてみると、とても重い価値があることだと思います。私が知る四十年前の沖縄は、日本本土に復帰した後の、未だ経済面や社会面での矛盾と混乱を抱えていた時期でした。ですから、大正時代から沖縄出身者が多く移住していった神奈川県の川崎鶴見を中心とした地域を除くと、関東の地に琉球古典音楽を立ち上げるということがどれほど大変なことであったかという点を深く考えざるを得ません。草創期の先輩方には様々な苦労があつたことと推察いたします。さて、本記念公演では、演目に私どもなりの工夫を凝らしております。演目の一つには、昨年立ち上げました、関東支部研修会の成果発表曲として、屋嘉比工工四の復元曲を取り入れました。屋嘉比工工四は十八世紀に屋嘉比朝寄によつて作られた、現在の工工四の原型となる古いものです。沖縄県立芸大で研究されてきたそれらの復元曲を関東で初めてご披露いたします。十八名の研修生が、新垣俊道先生のご指導を受け、半年をかけて練習いたしました。また、女性師範三名による「干瀬節 三連歌」は、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている、歌舞劇「組踊」のなかの「執心鐘入」の歌詞で歌います。歌い手と歌詞が変われば、同じ曲でも全く違った曲想を聞き手に感じて頂けるのではないかという試みです。さらに、舞踊曲もこれまでの関東支部定期公演では、ご覧になる機会のなかつた演目に挑戦しております。先達があつてこそその琉球古典音楽です。今、こうして多くの仲間たちと一緒に関東支部創立四十周年記念公演の舞台に立てるに無上の喜びを感じています。本日は、沖縄をはじめ各地より先輩方や仲間たちが応援に駆け付けてくれました。新しい年の初めにご観覧にお越しいただきましお客様に心より御礼を申し上げます。

ご挨拶



琉球古典音楽 野村流保存会
会長 勝連繁雄

琉球古典音楽 野村流保存会関東支部創立四十周年記念「第八回琉球古典音楽の会」公演が開催されるに当たり一言ご挨拶を申し上げます。

関東支部は仲宗根善久氏のご尽力によって一九七八年14名で結成され、二〇一七年四月現在、13研究所、40数名の師範教師をはじめ総勢120名余の組織になったといいます。当初は沖縄県出身者のみであった会員が現在では殆どがヤマトンチュ（本土の方）になつていています。時代の流れということでどうか。琉楽（琉球古典音楽）が県外、海外へ浸透発展していくことにもつながり嬉しい事であります。

関東支部の発展は歴代の支部長をはじめ役員の皆様のご尽力の賜だと思っていますが、特に現小西睦子支部長体制になつてからは関東支部の活動が一段と活発化しているように輝いて見えます。小西支部長の前へ前へと事業計画を進めて行く手際の良さには感心するばかりです。昨年立ち上げたという関東支部研修会をはじめ、研究所単位の発表会も活発になつたと聞いています。2016年度大城貞吉研究所発表会、日高桃子等・比嘉康春研究所女性師範の会、宮城康明研究所温習会、寺本さやか研究所温習会、2017年度宮城秀夫研究所発表会など、その成果は今回の公演にも現れるものと期待しております。

公演を見ると多岐にわたり工夫が凝らされていることが窺えます。独唱の歌詞を本歌以外のものに替えて歌うことにして、その一つであります。琉樂は「一曲一歌詞」ではなく（仲節などの例外はあるが）一曲多歌詞という特性からすれば当然の試みだと思います（沖縄芸能協会が今年の新春公演でこのよくなことを大がかりにやつたことがある）。ただし何故本歌と呼ばれるものがあるか、それがあるということは何を意味するかを忘れてはならないとは思いますが。

以前にも書いたことがあります、沖縄の芸能は今や世界の多くの人々にとっても関心を持たれるほどに素晴らしい精神文化として認識され始めております。中でも琉樂は琉球芸能の核をなすものであり、それに関わっていることに誇りと喜びを感じますが、琉樂の大切な心を見失わないようにしたいのです。関東支部においても音楽活動を通して沖縄の伝統文化への理解を深め、会員相互の親睦にも繋がっていると思います。会員の皆様が益々ご精進され、更なる結束を固めて素晴らしい支部に発展させて頂きますようお願いを申し上げます。記念公演のご成功をお祈り致します。

ご祝辞



琉球古典音楽野村流保存会

相談役 玉城 政文

琉球古典音楽野村流保存会関東支部が、創立四十周年を迎えた、第八回琉球古典音楽の会を催されたこと、心よりお喜び申し上げます。

本部からも祝宴に参加出来ますこと楽しみにしておられます。年の初めにこのような催事を行う事にも深く感謝申し上げます。

関東支部設立の頃を回顧しますと、幾多の苦難があり、初めての支部長選任などは特に困難をきわめました。また本部会長の安富祖竹久先生が直接に他流派からの応援を頼るなどの苦難もございました。指導教室の場所探しにも苦労され、先達の先生方にも厚い温情を賜るなど、多くのお力添えを戴きました。辛うじて会員の集いがまとまつて、現在の支部が成立するまでは苦難の道程でした。

先達の諸先生方のご尽力には深く敬意を申し上げます。

創立四十周年を迎えたこの関東支部が、これ程充実した現支部を確立できたのは、若い会員と執行部の活力ある運営法の賜物だと思います。これから支部発展は確立されたものと喜びにたえません。

琉球古典芸能が国指定芸能となり、世界にも羽ばたく雄飛力の進出は皆さんのお力次第にかかります。力を合わせて琉球文化芸能の推進をよろしくお願いいたします。

小西支部長の平素の御活躍まさに健全早馬です。ウチナンチュの本質を関東でも歩み続けて下さい、ご盛会を祈ります。

ご祝辞



琉球箏曲保存会関東支部

支部長 北村 澄子

本日、琉球古典音楽野村流保存会関東支部主催による第八回琉球古典音楽の会「関東支部創立四十周年記念公演」が開催されますこと、心からお祝い申し上げます。

関東支部は、一九七八年（昭和五十三年）三月十二日、仲宗根善久先生を中心に十四名の会員で発足し、その後、歴代の支部長を経て、現在の第十代、小西睦子支部長および役員方々、そして会員の皆様が一致団結して、琉球古典音楽の普及、拡大を図り、現在の会員百二十名余りに発展されました。このような御尽力と御功績に対し、心から敬意を表します。

また、設立当初から四十年に亘り、関東在住の箏曲会員に活動の機会をいただき、なにかと御指導を賜りましたことに深く感謝申上げます。平成二十九年三月二十五日の琉球箏曲保存会関東支部設立に際しましては、野村流保存会関東支部の皆様には、絶大なる御支援と御協力を賜り、誠にありがとうございました。

さて、今回の第八回琉球古典音楽の会は、古典音楽を主とし、齊唱、独唱を取り入れられ、流麗な舞踊も披露されるものと聞きます。及んでおり、観客の皆様には、さぞかし素晴らしい公演と高く評価されることと確信いたしております。

野村流保存会関東支部におかれましては、小西睦子現支部長のリーダーシップのもとで、新たな取り組みが進んでいくよう拝見いたしております。そして、このような御努力は必ずや実を結ぶものと期待いたします。

本公司は、琉球箏曲保存会関東支部として初めて参加させていただきました公演となります。本公司の御成功に向けて三名の師範が中心となり、精一杯の御支援をさせていただく所存です。

最後に本記念公演の御成功、並びに会員の皆様の御健勝を祈念申し上げますとともに、琉球古典音楽野村流保存会関東支部の、今後ますますのご発展を祈念し、お祝いの言葉とします。

本日は誠におめでとうございます。

ご祝辞



沖縄タイムス社東京支社
支社長　具志堅 毅

関東支部四十年の歩み

支部長任期 (4月1日就 3月31日退)	支部長	副支部長	公 演	沿 革
1978-	金城 芳子			1978年3月12日、沖縄出身者14名の有志により関東支部結成。 支部設立から第1回発表会が開催されるまでの9年間は、各研究所単位の活動が中心であった。
1987-1989	仲宗根 善久	東 嵩純 宮城 寛一 仲宗根 忠榮	①関東支部第1回琉球古典音楽の会 沖縄復帰15周年記念 (1987.6.23 国立劇場演芸場)	仲宗根善久氏が支部活動を本格的に開始、第1回発表会を14名の設立メンバーを中心に開催。
1989-1991	仲宗根 八重子	東 嵩純 仲宗根 忠榮	②関東支部第2回琉球古典音楽の会 (1990.3.23 国立劇場演芸場)	
1991-1997	仲宗根 忠榮	宮城 秀夫 照屋 芳子	③関東支部第3回琉球古典音楽の会 関東支部創立15周年記念 (1993.5.22 東京都勤労福祉会館)	
1997-2003	宮城 秀夫	久田 友昭 北村 澄子 大城 貞吉 土屋 富美	④関東支部第4回琉球古典音楽の会 関東支部創立20周年記念 (1998.4.12 もみじ山文化センター 愛称 なかのZEROホール)	2000年、会員数50余名。師範3名(第1名)、教師11名(第4名)。本土出身の教師が3名誕生。
2003-2005	久田 友昭	山城 孝夫 佐々木 隆史 神谷 清輝 佐々木 隆史	⑤関東支部第5回琉球古典音楽の会 関東支部創立25周年記念 (2004.1.11 練馬文化センター)	第5回創立25周年式典に於いて、仲宗根善久、仲宗根忠榮、宮城秀夫、照屋芳子の4氏に感謝状贈呈。 2004年、会員数83名。
2005	仲宗根 忠榮	水谷 亮介 神谷 清輝		仲宗根忠榮氏、2005年10月17日逝去。
2006-2010	宮城 秀夫	水谷 亮介 上里 民智徳	⑥関東支部第6回琉球古典音楽の会 関東支部創立30周年記念 (2008.4.6 もみじ山文化センター 愛称 なかのZEROホール)	2008年6月1日、宮城秀夫氏、県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流」伝承者認定。 2008年11月28日、仲宗根善久氏、県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流」保持者認定。
2010-2014	水谷 亮介	大城 貞吉 小西 瞳子	⑦関東支部第7回琉球古典音楽の会 関東支部創立35周年記念 (2014.2.9 浅草公会堂)	2013年、会員数100名を超える。
2014- 2018 現在	小西 瞳子	大城 貞吉 濱田 武志 大城 貞吉 日高 桃子	⑧第1回わかし公演 (2015.11.8 梅舟文化センター) ⑨関東支部第8回琉球古典音楽の会 関東支部創立40周年記念 (2018.1.14 かつしかシンフォニーヒルズ)	2015年6月21日、水谷亮介氏、県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流」伝承者認定。 2015年11月8日、若手会員の育成を目的とした、「第1回わかし公演」を開催。 2017年3月25日、約40年間、三線と活動を共にしてきた筝曲会員が琉球筝曲保存会関東支部として17名で独立。 2017年4月、関東支部研修部発足。 (研修部長日高桃子氏) 2017年4月現在、 関東支部会員数129名 師範12名、教師29名

琉球古典音楽野村流保存会関東支部が創立四十周年を迎えられ、ここに盛大に記念公演が開催されることを、心よりお慶び申上げます。

ご承知の通り、琉球古典音楽は二〇〇〇年に、琉球舞踊は二〇〇九年にそれぞれ国指定重要無形文化財に指定され、二〇一〇年には組踊がユネスコの無形文化遺産に登録されました。琉球舞踊、組踊の重要な要素である琉球古典音楽は、全国でも類をみない特色ある伝統芸能として国内外から高い芸術的評価を受けております。

野村流保存会関東支部は一九七八年三月に沖縄出身者十四人の有志により結成され、今日まで脈々とその流れを継承しております。三線人気の広がりとともに会員数も約百二十人までふくれあがり、女性会員も増えていると伺っております。ここ首都圏で古典音楽を学ぶ三線愛好者が多くいらっしゃることは私たちウチナーンチュにとってこの上ない喜びであり、聞く人の心に響く三線の音色は誇り高き古里沖縄への郷愁を説き、あすへの活力になっております。支部結成以来今日に至るまで様々な困難を乗り越え、関東における琉球古典音楽の担い手として継承・発展に多大な貢献をされていることに対し、歴代支部長や役員、関係者の皆様に深く敬意を表し心から感謝を申し上げます。

琉球古典音楽野村流保存会は二〇〇六年に「保存会賞」を設置し小・中学生らの育成に力を入れておられます。関東支部も若手会員に舞台経験を積んでもらおうと二〇一五年十一月に都内で第一回わかし公演を開催し、十四演目で初々しい歌・三線を奏でてくれました。また、昨年から師範・教師を中心とした研修会を発足させ、屋嘉比工工四復元曲や普段の稽古では取り上げられない名曲への挑戦や琉歌の勉強にも励んでいるとの伺いしています。歌の世界には先人の人生観、世界観が織り込まれており、歌詞の背景を知ることで曲への理解が深まり沖縄を知る機会にもなります。その熱意と絶え間ない研さんに対し小西瞳子支部長はじめ役員並びに会員の皆様にあらためて敬意を表します。関東支部におかれましては今後も琉球古典音楽の保存・継承という高い志をもつて一歩ずつ着実に歩みを進め、後進の育成に励まれますようご期待申し上げます。

第八回琉球古典音楽の会「関東支部創立四十周年記念公演」では会員らが、古典音楽の齊唱や独唱、舞踊地謡など日々の修練の成果はもとより、昨年から始まった支部研修会の研究成果が演目として披露されます。創立四十周年の節目にふさわしい古典音楽の魅力が堪能できるものと大いに期待しております。

結びに四十周年記念公演のご成功と野村流古典音楽保存会関東支部の益々のご発展、会員の皆様のご健勝をご活躍を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉とします。

齐唱出演者（かぎやで風・恩納節・辺野喜節・茶屋節・すき節・よしやいなう節）

【歌三線】 琉球古典音樂野村流保存会

勝連繁雄	上原トミ子	金城勉	上原靖弘	宮城康明	儀間良和	宮城幸盛	仲宗根盛栄
大灣朝重	宮城啓子	吉田稔	宮城春代	宮城赳	吉田有紀	花城盛三	松田和則
古波藏峰子	仲宗根玄雅	仲宗根裕	棚原國次	橋村陽子	下田美輪子	大城幸盛	島袋民雄
池野和夫	一瀬悦朗	吉田有紀	高嶺方祐	伊藤とよ	上原隆	浜本隆子	新城邦子
名嘉正光	野原広明	仲田治己	玉城清	仲田治己	山口美樹	神谷美枝子	比嘉洋子
小川良勝	上地弘子	田中保	上地弘子	上地弘子	田山文子	中尾義秀	比嘉いづみ
		橋村陽子	玉城清	玉城清	中尾義秀	小嶺ゆり子	新垣俊道
		伊藤とよ	上地弘子	上地弘子	田山文子	比嘉洋子	稻嶺盛律

【箏】

琉球古典音楽野村流保存会関東支部	小西睦子	大城貞吉	日高桃子	仲間功	川野和好	渡邊隆子
	仲宗根栄	谷川昇	東江邦夫	寺本さやか	藤高めぐみ	水谷亮介
	野村香司	登坂寛	板良敷朝英	上里民智徳	與那霸朝成	知念良弘
	岩崎徳子	田中新	西元晃子	宮川由香里	三浦千寿	塚越絵里子
	細田伸昭	佐々木伊津子	中井隆弘	中村昌美	川野香織	越恵吾
	上原瞬	塚本綾子	澤田一江	安部浩子	安部綾菜	石山裕一
	藤野恵美	杉山和敬	杉山晴美	遠山泰永	佐々木良子	吉堅宗啓
	栗津茂登美	小久保舞美	小室吉隆	伊敷栄二	米須徹	石田ひとみ
	山内盛貴			山城祐子	熊倉伸一	加藤保子
バー・バラ・ガイルホン						浅川京子
蔡佩穎						

笛

琉球箏曲保存会	山内好子	喜久村克子	上間千枝子	比嘉淳江	城間良子	喜屋武初江
美里登喜子	伊良皆順子	平良マサエ	大城清子	上原幸子	知名幸子	铭苅賀代子
野原ヒロ子	島袋照子	枝川ヒロ子	石川瑠美子	高宮城光子		
玉城千恵	浜元利江子					
宜蘭松都	菱田まき	森明日加				
北村澄子	神谷ケイ子	川崎育恵	大城朝子	仲宗根美花		
琉球箏曲保存会関東支部						

〔太鼓〕

光史流太鼓保存会　具志なおみ太鼓東京練場
八重山古典音楽　孫明流太鼓の会　東京支部
大城朝夫

演

目

- ① 幕開け舞踊・齊唱 かぎやで風 恩納節 辺野喜節
- ② 舞 踊 作田
- ③ 舞 踊 女こてい節
- ④ 独 唱 干瀬節 三連歌（組踊「執心鐘入」より）
- ⑤ 独 唱 散山節 仲風節 述懷節
- ⑥ 舞 踊 魔（ゼイ）踊
- ⑦ 舞 踊 しょんどう
- ⑧ 齊 唱 茶屋節 すき節
- ⑨ 研修曲三題 楚與々節（屋嘉比工工四復元曲）伊集之木節 本赤田花風節
- ⑩ 舞 踊 湊ぐり
- ⑪ 独 唱 仲間節 仲村渠節 赤田風節
- ⑫ 舞 踊 本嘉手久
- ⑬ 舞 踊 金細工
- ⑭ 齊 唱 よしやいなう節

一、幕開け

舞踊 かぎやで風（新年の歌詞）

【舞踊】喜扇本流川口喜代子琉球古典舞踊研究所

川口眞里奈

川口和子

川口圭子

川口正子

川口満寿子

川口三津子

【歌意】

新年になると、たんと喜ぶという縁起を祝つて、炭と昆布を飾り、心も姿も若くなつたような気がするものだ。

【解説】

沖縄芸能の舞台の幕明けを飾る代表的な祝儀舞踊。今回は新年の歌詞で歌う。

齊唱 恩納節

恩納松下に 禁止の牌の立ちゆす 恋忍ぶまでの 禁止やないさめ

【歌意】 恩納村の松並木の下に禁止の立札があるが、恋愛することまで禁止した立札ではないだろう。

いじゅの木の花や あんきようき笑きゆり わみもいじゅやとて 真白笑かな

【歌意】

伊集の花は、真白な色で美しく清らかに咲いている。私もある伊集の木の花のように、美しくありたいものである。

齊唱 辺野喜節

11

二、舞踊 作田

【舞踊】 真踊流佳藤の会 藤原悦子琉舞道場 藤原悦子
【歌三線】 野村香司 柏原雄人 濱田武志 登坂寛
【箏】 川崎育恵 【笛】 宜蘭松都

作田節

穂花咲き出れば ちりひぢもつかぬ しらちやねやなびき あぶしまくら
【歌意】 稲の穂花が咲き出ると、塵も泥も付かず、白い実がたわわになびいて畠を枕にする程である。

早作田節

銀白なかへ 黄金軸立てゝ 試しすりましゆる 雪のま米

【歌意】 銀の臼に黄金の杵を立てて試しに精米すると、思ったよりも多く雪のような真つ白い米が採れた。

【解説】 作田には二通りの舞踊がある。「穂花…」の歌詞で踊る場合には稻穂を小道具に持ち、その時の（入羽の踊）の早作田節は「銀臼なかへ…」「たがすもてなぢやが…」の歌詞の場合には団扇を持ち、早作田節は「夏の日も秋の…」となる。

三、舞踊 女こてい節

舞踊

真踊流佳瑞の会 瑞慶山和子琉舞道場 大和田文子

歌三線

岩片美奈子 加藤郁恵 渡邊隆子 赤岩千鶴子

箏

仲宗根美花 【笛】 菱田まさ 【胡弓】 中村文子

歌意

慈悲深い国王様であるからこそ、すべての人々が上下も打ち揃って仰ぎ拝むのだ。

【解説】 おめでたい歌詞であることから、舞台公演の初めに踊られる場合が多い。女踊は基本的には出羽・中踊・入羽で構成されているが、この踊りは、組踊の一場面から独立して踊られるようになつたため、女踊の様式を踏ます、「じご節」一曲だけで踊る。

御慈悲あるゆゑど 御万人のまぎり 上下もそろて 仰ぎ拝む

舞踊

眞踊流佳瑞の会 瑞慶山和子琉舞道場 大和田文子

歌三線

岩片美奈子 加藤郁恵 渡邊隆子 赤岩千鶴子

箏

仲宗根美花 【笛】 菱田まさ 【胡弓】 中村文子

歌意

慈悲深い国王様であるからこそ、すべての人々が上下も打ち揃って仰ぎ拝むのだ。

【解説】 おめでたい歌詞であることから、舞台公演の初めに踊られる場合が多い。女踊は基本的には出羽・中踊・入羽で構成されているが、この踊りは、組踊の一場面から独立して踊られるようになつたため、女踊の様式を踏ます、「じご節」一曲だけで踊る。

千瀬節 三連歌 組踊『執心鐘入』より

【歌三線】寺本さやか 【箏】北村澄子

里とめばのよで いやで言ゆめお宿 冬の夜のよすが 互に語やべら

【歌意】 愛しいお方と思えば、どうしてお宿にお泊めするをお断りするでしょうか。

冬の夜のよもすがら、互に語り合いましょ。

【解説】 組踊『執心鐘入』にて、中城若松が行き暮れて一夜の宿をとった時、

その家の女（宿の女）は親の留守と言つて初めは断つた。

だが、評判の高い美少年・中城若松であることを知ると、

泊めることを承諾し、家に招き入れる場面での歌である。

【歌三線】田高桃子 【箏】城間良子

及ばらぬ里と かねてから知らば のよで悪縁の 袖に結びやべが

【歌意】 及ばぬお方とかねてから知っていたら、何で悪縁が袖に結びついたのであろうか。恨めしい。

【解説】 宿の女が中城若松に恋している意思表示をするけれども、

若松がはねつけて受け入れてくれない。恨んで悶える場面での歌である。

【歌三線】小西睦子 【箏】上間千枝子

悪縁の結で はなちはなされめ ふり捨てゝいかは 一道だいもの

【歌意】 悪縁が結ばれてしまったので、離そつとしても離されるものか。

もしも私をふり捨てて行ったら、諸共に死ぬばかりだ。

【解説】 宿の女が中城若松を追いかける際に、死ぬ覚悟をすると共に、

相手の若松も生かしてはおかぬという執念深い決意で出かける場面での歌である。

組踊について

組踊の誕生と「朝薫五番」

一七八年、二度目の踊奉行（おどりぶぎょう）「冊封使（さくほうし）」をもてなす宴（うたげ）で音楽や舞踊などを担当する役職「に任命された玉城朝薫は、翌年に行われる尚敬王（しょうけいおう）の冊封の御冠船踊（おかんせんおどり）のために初めて組踊を創作しました。このときに上演した『二童敵討（にどうてきうち）』が組踊の初演です。当時、冊封使だった徐葆光（じよほうこう）が書いた『中山伝信録（ちゅうざんでんしんろく』によると、『二童敵討』と『執心鐘入（しゅうしんかねいり）』の二演目が宴で上演されたと記されています。

朝薫が創り出した組踊は、朝薫が江戸上り（えどのぼり）のときに見聞したと思われる能楽や歌舞伎など日本本土の芸能の様式を取り入れながらも、琉球の歴史や故事、説話などを題材に、せりふには琉球の古い言葉が使われ、さらに琉球三線音楽と琉球舞踊を融合させ、この国独自の歌舞劇として生み出されました。

朝薫はさらに『銘苅子（めかるし）』『孝行の巻（こうこうのまき）』『女物狂（おんなものぐるい）』も書き上げ、五演目を完成させました。この五演目は「朝薫五番」ともいわれ、現在もよく上演される組踊の代表作となっています。

五、独唱

散山節

【歌三線】野村香司 【箏】川崎育恵

あらしき声のあらば 無藏一人なしゆめ 我身も諸共に ならんしゆもの

【歌意】 もじものことがあつたなら、あなた一人にはしないよ。私も一緒に、それが最後という覚悟を決めよう。

仲風節

【歌三線】稻嶺盛律 【箏】喜久村克子

花の木陰に 住みなれて いきやすくなつかしゃの 別て行きゆが

【歌意】 恋人の許に住みなれた今になつて、悲しいことだ、どうして別れいくことができようか。

述懐節

【歌三線】水谷亮介 【箏】神谷ケイ子

与那の高ひらや 汗はてど登る 無藏に思なせば 車たうばる

【歌意】 与那の急な坂は、汗を流して登るほどきつじころだが、愛しい人のことを思いながら歩けば、平坦な原のようなものである。

六、舞踊 麋(ゼイ)踊

【舞踊】琉球舞踊 八陣流餘音の会東京支部 前田千加子琉舞道場

浜口佐代子 赤嶺奈津子 赤嶺真希 前川竹美 江洲のぶ子 外間恵梨華

【歌三線】仲宗根栄 串田雅司 遠山泰永 杉山和敬

【箏】仲宗根美花 【笛】森明日加 【太鼓】県志なおみ

歌持ち(前奏) 渡りざう・瀧落管撓

揚作田節

ゆたかなる御代の しるしあらわれて 雨露のめぐみ ときもたがぬ

【歌意】 豊かな御代(豊年)となる兆が現れたので、雨・露の恵みも季節を違えることなく、今年も豊作だ。

浮島節

今日や御行逢拝で 色々の遊び 明日やおもかげの 立つよとめば

【歌意】 今日はお逢いして色々な遊びをしたが、(お別れして)明日からあなたの面影が立つかと思つと寂しくなる。

【解説】 五穀豊穣を予祝し、太平の御代を祈願する祝儀舞踊。

「麁(ゼイ)」とは差し招く、あるいは軍隊の指揮をする旗の意味。

沖縄では、麁を使うことで厄除けや舞台の座を清めるものとして捉えられている。

七、舞踊　しよんどう

【舞踊】 富城洋子琉球舞踊研究所　冨村博子　上田裕子　棚綱美智子　伊芸艶子
【歌三線】 寺本さやか　杉山晴美　佐々木良子　仲間裕子
【箏】 川崎育恵　【笛】 菊田まき　【胡琴】 中村文子

しよんどう節

諸屯長浜に 打ちやい引く波の 諸屯女童の 目笑い歯ぐき
諸屯女童の 雪のうのはぐき いつか夜のくれて み口すはな

【歌意】 諸屯の長浜に寄せては返す白波は、まるで諸屯の乙女が笑っている時の美しい目と真白い歯のようだ。

諸屯の乙女の雪のようないい歯と口元。日が暮れたら口づけをしよん。

それかん節

油買うてたぼうれ　じはも買うてたぼうれ　捨て夫の見る前　みなでしゃべら
あだに垣だいんす　御衣かけて引きゆり　だいんす　もどぐらひや　手取て引きゆら

【歌意】 髪油を買って下さい。簪(かんざし)も買って下さい。私を捨てた夫の前では、身だしなみを整えていたい。

毛嫌いされる阿旦の木でさえ、着物を引っ掛け引き寄せててくれる。

だから、昔契つたお方も、きっと私の手を取り、引き寄せてくれるだろう。

やれこのし節

おしつれて豆に 遊びぼしやあすが むぢやれ匂高き わかて遊ば
よもづらのきよらき どく頼でくるな 縁ど肌そゆる 浮世知らね

【歌意】 連れ立って一緒に遊びたいのはやまやまだが、臭いがひどいので離れて遊ぼう。

顔が美しいからといって、それに頼つてはいけない。

男女の仲は、縁あつて結ばれるのが世の習いであることを知らないのか。

【解説】 琉球王府時代、中国からの冊封使を歓待するための芸能「御冠船踊」のうち、演目の最後に踊られた。

二組の美女と醜女が交差しながら、美女は優雅に、醜女はお面を付けて滑稽に踊る。
しかし、滑稽さや笑いが主題ではなく、

「人間は、顔かたちではなく、心が大切」と、人間のあるべき姿を説いていたようだ。





八、齊唱 茶屋節 すき節

茶屋節

すき節

拝がでのかれらぬ 首里天ざやなし 遊てのかれらぬ 御茶屋御殿

【歌意】 お顔を拝すれば、いつまでも立ち去りがたくなるのが国王様であり、

優雅に遊ぶことができて、立ち去りがたくなるのが御茶屋御殿である。

節々がなれば 本草だいもしゆり 人に生まれとて わ親しらね

【歌意】 季節になれば木草でさえ芽を出し、花を咲かせることを知る。

人に生まれたのに、自分の親(への孝養)を知らないことがあらうか。

お問い合わせは琉球新報東京支社 TEL. 03-6264-0981 *平日10時～16時



MADE IN OKINAWA
爽快という、うまさ。

Orion

ORION'S ORIGINAL BREW
★★★ Orion DRAFT BEER
ORION DRAFT BEER'S CLEAR MILD TASTE IS WHOLLY LOVED AT AN OKINAWA ORIGINAL

ORION'S ORIGINAL BREW
★★★ Orion DRAFT BEER
ORION DRAFT BEER'S CLEAR MILD TASTE IS WHOLLY LOVED AT AN OKINAWA ORIGINAL

のんだあとはリサイクル

ORION DRAFT BEER

STOP!
未成年者
飲酒

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。オリオンビール株式会社
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に。

九、研修曲三題 歌三線指導 新垣俊道

【歌三線】 小西睦子 大城貞吉 日高桃子 水谷亮介 寺本さやか 仲間功 川野和好 仲宗根栄 谷川昇 東江邦夫

藤高めぐみ 宜蘭松都 岩片美奈子 加藤郁恵 山田和孝 仲間裕子

【笛】 森明日加 【胡弓】 中村文子

楚與々節（屋嘉比工工四より復曲）※玉城あゆみ 平成十九年度沖縄県立芸術大学修士演奏

なれやうなれ茄子 姑の屋の茄子 ならなしゆて嫁名 立ててくいるな

【歌意】 姑の家の茄子よ、たくさんなれ。ならなかつたら、嫁として私の面目が立たない。

伊集之木節

あの伊集の花や あがきよらき咲きゆり わぬも伊集やとて 真白咲かな
花と露の縁 あたらませ我身の やゝ毎に御側 添やい居らめ

【歌意】 花と露にいつも新たな縁があるように、私もいつもおの方のお側に寄り添いたいのだ。

本赤田花風節

『屋嘉比工工四』を研究する意義について



琉球古典音楽野村流保存会師範
沖縄県立芸術大学非常勤講師 新垣俊道

現在、琉球古典音楽は大きく分けて安富祖流と野村流があり、その他に湛水流がある。湛水流の創始者である湛水親方こと幸地賢忠（二六三三～一六八三年）は琉球古典音楽の祖と言われ、三線音楽を芸術の域まで洗練させ独自の芸風を打ち立てたとされている。その芸風は沢山良沢、新里朝住、照喜名聞算、組踊の創始者である玉城朝薫に受け継がれている。

照喜名の影響を受けたのが高弟の屋嘉比朝寄（一七一六～一七七五年）である。屋嘉比は国王の側近で謡曲師匠を務めるなど音楽的才能を發揮し、謡曲の技法を取り入れた古典音楽の改革や作曲を行い、古い流派に対する当世風の当流を打ち立てている。さらに一七五一年、一二七曲ものレパートリーをまとめ上げた楽譜『屋嘉比工工四』を編纂しており、この工工四是現存する最古の楽譜となっている。屋嘉比の後、名人と言われた知念積高（一七六一～一八二八年）が現れる。屋嘉比の弟子である豊原朝典のところで三線音楽を学んだ知念は『屋嘉比工工四』を大幅に改良した『知念工工四』を編纂したとされている。知念の高弟には安富祖正元（一七八五～一八六五年）、野村安趙（一八〇五～一八七二年）があり、後に安富祖流、野村流の流儀として確立していく。安富祖は知念の遺言により『知念工工四』を改良した工工四を編纂し、野村安趙は尚泰王の命を受け高弟の松村真信らとともに一八六九年に『欽定工工四』を編纂している。また、安富祖の高弟である安室朝持は、一九二二年に安富祖が編纂した工工四を『欽定工工四』を基に改訂した『安室工工四』を編纂している。さらに一九三五年には野村流の伊差川世瑞、世礼国男共著『声樂譜附工工四』が編纂され、安富祖流では古堅盛保らによって『安室工工四』に改訂を加えた工工四を編纂している。

それぞれの時代に名人が出現すると演奏に改革が起り、樂譜も編纂され、さらには記譜法など進歩した樂譜整備がなされている。『屋嘉比工工四』『知念工工四』は枠目がなく、縦書きに連続して記載された書き流し式に大きな特徴がある。音の長さや○拍子の長さを計ることが難しく、備忘録的な樂譜であったことが推測される。様々な樂譜の中で飛躍的に進歩したのは『欽定工工四』であろう。これまでの書き下しだった樂譜を二行十二枠の枠目にはめて整備し、脈拍を用いた曲のテンポを設定している。さらに『欽定工工四』を基に声樂譜を初めて表記した『声樂譜附工工四』は画期的な樂譜である。

このように、長い年月の間には樂譜の変遷もあり、当然ながら伝承が途絶えている曲もある。『屋嘉比工工四』には現在では伝承が途絶えた曲があり、近年、このような曲を復元する試みが沖縄県立芸術大学を中心に行われている。

復元には根拠となる古典音楽の様式、樂曲や樂譜の分析などを通じた樂典の研究が不可欠である。様々な研究を行い、明らかになった一つ一つの要素や推測を組み合わせて復元していくのである。さらに復元といふ作業の過程で培ったものは、最終的に創作に活かされるであろう。「歌の島」と言われる沖縄では、日々、多くの曲が誕生しているが古典的な音楽はほとんど創作されていない。様式に則った藝術性高い古典的な音楽創作は、今後の大きな課題である。古の人々が、これまでの音楽に改革を与えるが、新たな世界を創り出していったように、現代人もうそでなければならない。復元には再生と創造、この二つの深い意味合いがあり大変重要である。『屋嘉比工工四』だけではなく、『俗風工工四』にも埋もれた曲が多くある。埋もれた曲の復元は重要であり、教育・研究機関である県立芸大の役割は大きい。

（あらかきとしみち）

沖縄県立芸術大学大学院修了、国立劇場おきなわ第一期組踊研修修了。現在、沖縄県立芸術大学非常勤講師、沖縄伝統組踊子の会会長の傍ら、実演家として組踊、琉球舞踊、沖縄芝居等の舞台で幅広く活躍している。

十、舞踊 湊くり

【舞踊】 玉城流喜天の会 関りえ子琉球舞踊研究所

関りえ子 宇夫方路 関優子 関堯之 関杏那 岩屋由美子 砂原美文 屋比久涼子

【歌三線】 水谷亮介 谷川昇 青山康和 中井隆弘

【箏】 神谷ケイ子 【笛】 宜蘭松都 【太鼓】 大城朝夫

中作田節

月夜月ともて 明ける夜や知らぬ 女童腕枕にや 夜や明かち

【歌意】 月の夜の明るさだとばかり思い込んで、夜の明けるのも知らず、乙女の腕枕をしていたら、すっかり夜を明かしてしまった。

湊くり節

笠に音立てて 降たる夏雨も 今や打ち晴れて 太陽と照ゆる
今や打ち晴れて 太陽も照り勝て かなし思無歳よ 照らすとめば

【歌意】 笠に音を立てて、降った夏のにわか雨も、今は晴れ上がって、太陽が照り輝いている。今はすっかり晴れ上がって、太陽も照り輝いて、愛しい貴方を、照らすのかと思うと。

【解説】 陣笠を持って軽快に踊る楽しい踊り。太陽がさんさんと照り輝いて人々が喜ぶ様を表現している。いかにも一才を思わせるきびきびとした威勢のいい踊りである。

十一、独唱

仲間節

【歌三線】 濱田武志

【箏】 北村澄子

わが身つでみちど よその上や知ゆる むりするな浮世 なきけばかり

【歌意】 わが身をつねってみれば、他人の痛みを知ることができる。無理な生き方をしてはならない。人生は情けが大切だ。

仲村渠節

【歌三線】 大城貞吉 【箏】 神谷ケイ子

仲村渠そばいど 真簾は下げて あにあらはもとまば 忍でいまうれ

【歌意】 仲村渠家の裏戸の簾が下がっている場合は、他所の目にかかるようじうを忍んでいらっしゃい。

赤田風節

【歌三線】 勝連繁雄 【箏】 山内好子

赤田門や つまるとも 恋しみもの門や つまてくいるな

【歌意】 赤田門(あかたじょう)は閉まつていても、両方の溝から自由に出入りできるが、御物門は閉まつてくれるな。

十二、舞踊 本嘉手久

【舞踊】 琉球舞踊重踊流 前田恵 土屋奈奈

【歌三線】 田高桃子 小西睦子 藤高めぐみ 塚越絵里子

【箏】 仲宗根美花 【笛】 森明日加 【胡弓】 中村文子

本嘉手久節

深山鶯の 節や忘りらん 梅の匂しぬで ふきるしゅうへや

【歌意】 深い山奥の鶯が季節を忘れないで、梅の花が咲くとその匂を忍んで来てもらひする声が美しい。

出砂節

笠にちりとまる 春の花心 袖におみとまれ 里が御肝

【歌意】 春の花が散つて笠が止まるように、あの方のお心がわたしの袖に止まつてほしいのです。

揚高袴久節

春に浮かさりて 花のもと忍て 袖に匂うつち 戻る嬉しや

【歌意】 春に浮かされて花の元を忍んで行き、袖に匂を移して戻ることの嬉しさよ。

【解説】 琉球舞踊の典型的な三曲で構成されている。「鶯や梅」を歌い込んでいるが主題は若い女性の恋。

三曲の歌詞から、一見、梅の花を愛する春の華やかさを表現しているように見えるが、中踊りの「袖に里とまれ里が御肝」から、若い女性の恋とも解釈できる。また、歌詞を文字通り解釈して、「花見踊」とも、笠を被ることから「花笠踊」とも呼ばれる

十三、舞踊 金細工

【舞踊】

玉城流煌扇舞華の会 新城久美琉球舞踊道場

新城久美 新城美香 新城雄也

【歌三線】

大城貞吉 上里民智徳 川野和好

【箏】

神谷ケイ子

【笛】

宣蘭松都

【太鼓】

大城朝夫

【三板】

具志なおみ

一、美里間切の伊波の金細工のてえふあ加那兄喰て加那兄がせる事や

(ヒーヨーヒーヨードウガネーユヤツササーサヒヤサヌサー)

二、辻の時の真牛島の二才達も案内無しくに引き越さい

三、いえ加那兄一月三十日なるまで我がかなえやいきやし吳ゆが

四、心配すな真牛 親のゆずりの風櫃も有いよ 金具も有いよ おれ売て阿母返済すんて

(ユヤツササーサヒヤサヌサー)

五、言る内する内 上泊鍛冶屋も走ち来れば

(ヒーヨーヒーヨードウガネーユヤツササーサヒヤサヌサー)

六、風櫃買んそれ金具買んそれさんてえまん買うゆる人や居らぬ

七、言る内する内 泊高橋にや寄せかけて

八、いえ真牛汝や其処居て烟草吹き居れ 我身や彼処行じ俵錢借て来う

九、彼処や行じや事てえふあ加那兄喰て加那兄んで言ち借らする人や居らぬ

十、いえ真牛 我した男の泊高橋けえり落てら
十一、先づ待て加那兄 去る三月三日三貫模令もかけてあもの おれ取て阿母返済すんて

(ユヤツササーサヒヤサヌサー)

十二、さつても真牛 お首尾しやるい

(ヒーヨーヒーヨードウガネーユヤツササーサヒヤサヌサー)

十三、言る内する内 西武門もはち来れば

十四、いえ加那兄 其処の町屋に置きある 卵くびちゃん錢もかたみて先なれよ

十五、言る内する内 時の門もはち来れば

十六、おしたいびら。誰がやあ。此処の真牛添うて来んど

十七、さつても加那兄 一月三十日なるまで 我つた真牛 かんしょうがらち

十八、いえ阿母汝達真牛や去る月からかんどあたる

十九、いえ加那兄 其りも済むしが 島の芭もかなえも持つちちえみ

二十、いえ阿母 我した男のおれもおくれゆめ

二十一、果報し加那兄裏座もまどやさ 入つち遊び

【解説】

金細工とは、昔の鍛冶屋のこと。放蕩者の鍛冶屋の加那兄が、遊女の真牛を美里の伊波村に連れ出して一ヶ月後、

那覇の辻の妓楼に返すまでの道中を「コミカルに描いた舞踊劇である。

途中、加那兄は、揚げ代が工面できず身投げしようとしたり、結局、真牛の模合(頬母子講)の金で

妓楼の主人へ支払うことになるなど、その滑稽な駆け引きが、地謡の歌三線に合わせた踊りで展開されていく。

明治二十年の末頃、玉城盛重によって作られ、当時は自らが加那兄役をつとめ、人気を得た。

なお、歌詞には「胴金、俵錢、卵括、うしたいびら」などの古い表現が、随所で使われている。

十四、齊唱 よしやいなう節

十日越の夜雨 草葉うるはしゆす おかげぼくへ御代の しるしきらめ

【歌意】

豊穣をもたらすよう十日おきに夜雨が降り、草葉をうるおしてくれるのは、

王が人々に仁政をしいている現れであろう。

【解説】

二揚曲の独唱五曲の後、本曲や『立雲節』『田島節』のいずれかを終曲として歌う慣わしがある。

参考資料

- 『野村流工工四 上巻・中巻・下巻、拾遺』野村流古典音楽保存会
- 『舞踊曲工工四 第一巻・第二巻』野村流古典音楽保存会
- 『組踊聲楽譜附工工四 第一巻』野村流古典音楽保存会
- 『舞踊曲組歌詞集』野村流合同協議会
- 『ふるさとの歌』増補版』与那霸政牛著、リューイン
- 『改訂 歌三線の世界 - 古典の魂 -』勝連繁雄著、ゆい出版
- 『琉歌集』島袋盛敏著、沖縄風土記社
- 『琉舞手帖』大道勇著、ボーダーインク
- 『琉球舞踊入門』宜保栄次郎著、那覇出版社
- 『沖縄三線 節歌の読み方』大城米雄編著、沖縄教版

監査役	理事	書記	会計	事務局長	副支部長	支部長	相談役	顧問	琉球古典音楽
中村 登坂 新垣 宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部	新登坂 垣宜蘭 野村 水谷 東江 谷川 藤高 寺本 仲宗根 渡邊 伸宗 根渡 関東支部
文子 寛盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 寛盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 寛盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ 文子 寛盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ 文子 寛盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ 文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ 文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ	文子 審盛 松市 香都 邦昇 香亮介 司めぐみ

東京那覇会新規会員募集

東京那覇会は昨年80回記念大会を迎えた。会員相互の親睦と沖縄に関する文化・敬老・奨学活動を行っておりますのでお気軽にご参加ください。

参加を希望される方は下記にご一報願います。

事務局 03-3469-0022

会長 山路 安清
副会長兼事務局長 庄司 マサエ
副会長 安次嶺 晓

三郷の便利屋

不用品 片付け	ハウス クリーニング	庭木 手入れ	草刈	修繕
古物買取	リフォーム	地震・ 防犯対策	引越し 手伝い	ビデオテープ →DVD
荷物移動	遺品整理	パソコン サポート	ビデオ・ 写真撮影	等々 その他 お問い合わせ 下さい

●詳しくはWEBで！ <http://satohs.com/>

お見積り・ご相談
お気軽に！

さとうホームサービス
0120-310-283

埼玉県三郷市戸ヶ崎 2-588
048-955-8971

古物商許可 埼玉県公安委員会 第431310027480号



本場沖縄の三線職人

~皮張り専門・強化張りから本張りまで~

いしかわわくわくショップ 代表 石川清春
三線修理・販売(人工張り・強化張り・本張り)

HP : <http://kiyo1123.web.fc2.com/>
TEL : 070-5272-1348

祝 第八回 琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会 宮城秀夫古典音楽研究所

師範 宮城秀夫

師範	柏原雄人
"	濱田武志
"	安田まり子
教師	東江邦夫
"	登坂寛
"	伊波万紀子
"	平井順子

**初心者歓迎 入会金なし・月謝 7000円
稽古日 毎週日曜日 AM11:00~PM17:00**



〒164-0013 東京都中野区弥生町2-52-8
城西本社ビル301号 円水館内
TEL・FAX : 03-5385-0580



琉球古典音楽野村流保存会

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会 大城貞吉古典音楽研究所

顧問 松田 忠男

師範 大城 貞吉

教師 板良敷 朝英

教師 上里 民智徳

教師 仲間 功

與那霸 朝成

知念 良弘

岩崎 徳子

田中 新

西元 晃子

宮川 由香里

三浦 千寿

野本 かをり

〒134-0085 東京都江戸川区南葛西6-4-13
TEL/FAX 03-3675-4635 携帯 090-3318-1776

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会 関東支部



師範 小西睦子

〒343-0841 埼玉県越谷市蒲生東町19-40

Tel : 090-4139-3434 Fax : 048-945-5594

e-mail : sansin109109@yahoo.co.jp

URL : <http://www.nomuraryu-hozon-kanto.com>



教師 川野和好



祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽 野村流保存会 関東支部

寺本さやか研究所

師範：寺本さやか

教師：佐藤舞 佐藤建一郎 遠山泰永 杉山晴美 杉山和敬

佐々木良子 大窪美登子 田畠暢弥 佐々木まどか
古堅宗啓 松元明 小室吉隆 小久保舞美

稽古日・稽古場所

日曜日 17:00～20:00 (新宿)

沖縄料理 城

〒160-0022

東京都新宿区新宿3-8-5 中川ビル2F

火曜日 19:30～22:30 (池袋)

ミキシステム株式会社

〒171-0022

東京都豊島区南池袋2-30-12 BITビル8F

連絡先 03-5269-2269 (沖縄料理 城) sayaka1008@i.softbank.jp

今年も温習会をやります！是非遊びにいらしてください。

第4回 琉球古典芸能と空手の集い

場所：大泉学園 ゆめりあホール

日時：2018.3.21 (水・祝) 12:30開場 13:00開演



2017.2.25(土) 第3回琉球古典芸能と空手の集いより

祝第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会関東支部

師範 日高桃子

(副支部長・研修部長)

湯島うた三線教室

(古典音楽コース)

教師 水津昭子

山城祐子

熊倉伸一

バーバラ・ガイルホン

蔡ペイイン

加藤保子

小室ゆかり

清水勝

浅川京子

白岩愛子

伊藤真理

山城綾

三線を始めたのはエイサーを見た 1988 年。琉球古典音楽は「十七八節」を聴いて。深いなあと感じました。現地の文化を体感したくて沖縄へ GO ! 5 年半滞在。素晴らしい先生方や音楽の友人と出会い、色々な舞台と村や島の祭祀を見て回りました。昔も今も、ウチナンチュの歌を聴くのが楽しみのひとつです。微力ですが、関東ではまだ知られていない琉球古典音楽の魅力を伝える活動をこれからもしていきたいと思います。

東京都文京区湯島 4-10-12

momoko.hidaka@gmail.com

最寄駅 千代田線湯島駅

師範	宮 宜 上 比	城 保 地 嘉	康 明 和 恵 美 子	明 正 則	一般	川 熊 知 新 大 上 江 田	平 倉 念 城 塚	人 樹 美 薫	一 秀 人 介 美 直 子
教師	岩 谷 加 渡 渡 藤 邊 藤 田 崎 山	片 川 藤 邊 田 崎 山	美 奈 子 昇 郁 隆 智 麻 里 緒 幸 康 智 和 加 孝 千 鶴 子	昇 惠 子 聖 靖 靖 和 加 子 ツ ル 子	一般	上 江 田 地 井 川 宮 城 田	伊 差 川 城 田	修 健 安 裕 大 真 由 美 直 子	一 秀 人 介 美 直 子
教師	青 内 米 赤 岩 嘉 手 苓	山 藤 田 岩 原	山 城 康 智 孝 千 鶴 子	城 靖 和 加 孝 千 鶴 子	学童	知 松 原 嘉 比 垣 松	念 村 原 嘉 花 村 原	柚 千 椿 あ す み 由 一 紗	輝 文 椿 あ す み 由 一 紗
教師	佐 久 川 新 栗	川 城 原	紀 敬 弘	弘 祥 一	学童	西 松	西 松	十 和	十 和
一般	佐 久 川 新 栗	川 城 原	紀 敬 弘	弘 祥 一	学童	西 松	西 松	十 和	十 和



東京教室の稽古風景



首里教室との懇親会

琉球古典音楽野村流保存会 祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会 宮城康明研究所

宮城 康明

琉球古典音楽野村流保存会 師範
琉球古典音楽野村流保存会 副会長
国指定重要無形文化財 組踊保持者
湛水流伝統音楽保存会 師範
首里伝統芸能文化協会 副会長
沖縄タイムス社伝統芸能選考会 選考委員
沖縄芸能協会 評議員
沖縄タイムス・カルチャースクール 三線講師



研究所所在地: 沖縄県首里石嶺町2-179-5

電話: 自宅 098-886-9494 携帯 090-3011-1851

◆那覇教室 稽古日と稽古時間

水曜日 13:00~22:00

木曜日 14:00~22:00

土曜日 10:00~12:00

◆東京教室

稽古場所、稽古日等につきましては、下記にお問い合わせください。

電話: 080-5430-6300(岩片)

e-mail: akedoma_tokyo@yahoo.co.jp

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会 師範（玉城政文門下会）
八重山古典安室流協和会 師範

鳩間 昇研究所

師範 高嶺 方祐
城土井 力（優秀賞） 池野 信子（新人賞）
武岡 寿和（新人賞） 粟盛 美和（保存会奨励賞・金賞）
武岡 春奈（保存会奨励賞・金賞） 武岡 美空（保存会奨励賞・銀賞）
大城 かおる（保存会奨励賞・金賞） 粟盛 舞弥（保存会奨励賞・銀賞）

琉球箏曲保存会 師範 八重山箏曲弾の会 師範

〒907-0003 沖縄県石垣市平得282 (電)0980-88-8041

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会 関東支部

仲宗根栄研究所

教師 仲宗根 栄



〒121-0064 東京都足立区保木間2-20-6
TEL/FAX 03-3883-5596 携帯090-3227-9548

* 2017年度沖縄タイムス伝統芸能選考会入賞者
新人賞 仲宗根 美花

* 会員 伊敷 栄二 米須 徹

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会 関東支部
沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流」伝承者



師範 水谷 亮介

連絡先 090-9273-9843
e-mail: lotte-takarazuka2014@ezweb.ne.jp

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会 関東支部

仲宗根栄研究所

教師 仲宗根 栄



〒121-0064 東京都足立区保木間2-20-6
TEL/FAX 03-3883-5596 携帯090-3227-9548

* 2017年度沖縄タイムス伝統芸能選考会入賞者
新人賞 仲宗根 美花

* 会員 伊敷 栄二 米須 徹

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽「歌・三線」研究会

琉球古典音楽野村流保存会 翁長良賢研究所

師範 翁長 良賢

教師 具志堅 興和
教師 中井 隆弘

教師 塚越 絵里子
教師 藤高 めぐみ

小金井教室
小金井市公民館東センター

西武多摩川線
新小金井駅徒歩3分
毎週土曜日
児童 17:00～18:00
一般 18:00～22:00

立川北教室
立川市高松学習館
JR中央線
立川駅北口徒歩15分
毎週日曜日
一般 14:00～16:00

立川南教室
立川シビル
JR中央線
立川駅南口徒歩3分
多摩都市モノレール
立川南駅徒歩1分
第1・第3土曜日
一般 14:00～16:00

国分寺教室
国分寺市本多公民館
JR中央線
国分寺駅北口徒歩10分
第2・第4月曜日
一般 18:00～22:00

電話:042-301-6931(翁長) Email:ryuonken@nonbillion.com HP:<http://ryuonken.webcrow.jp/>

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会 関東支部
野村香司古典音楽研究所

師範 野村 香司

祝 第八回琉球古典音楽の会

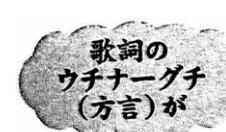
琉球古典音楽野村流保存会 関東支部
宜蘭松都古典音楽研究所(三線・笛)

師範 宜蘭 松都

e-mail: matsungane@gmail.com

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会



世の会

上手に使えるよう一緒に稽古しましょう!

嘉数世勲

〔笛・胡弓・三線・民謡
琉球舞踊と組踊の地謡〕

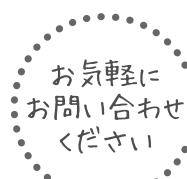
東京練場

重要無形文化財組踊(総合認定)保持者 重要無形文化財舞踊(総合認定)保持者
県指定無形文化財沖縄伝統音楽保持者 県指定無形文化財沖縄伝統舞踊保持者
連絡先 〒900-0031 沖縄県那覇市若狭2-11-21 携帯:090-4516-9235

東京連絡所 〒131-0046 東京都墨田区京島1-50-12
中村文子 TEL:090-7009-8722

祝 第八回琉球古典音楽の会

しもきた三線俱楽部



琉球古典音楽野村流保存会 教師
佐藤 建一郎／佐藤 舞

小田急線・京王井の頭線 下北沢駅南口徒歩5分
沖縄料理&創作ダイニング サザンウィンドウ



楽しくなければ続かない
続かなければ上達しない
上達しなければ楽しくない
楽しみながら歌三線しましょーねー！

連絡先:shimokita_sanshin_club@yahoo.co.jp
Facebook:SanshinclubShimokita
ブログ:町の三線弾きのブログ



祝第八回琉球古典音楽の会



琉球古典音楽野村流保存会関西支部

島袋盛堅 岩城吉成 宮城晃
和田直己 飯田崇 中尾敬一
上原仁吉 島袋鶴子 多川美由紀
野原ときわ 比屋根清子 満田義美
中尾雅子 池野和雄 石原猛
衣笠美穂

〒665-0847 兵庫県宝塚市すみれガ丘 2-1-1-304
支部長 宮城 晃 電話 0797-87-1406



琉球古典音楽野村流保存会 八重山支部

顧問 玉那霸有和 相談役 新井勝己 副支部長 貞志喜浩三
 顧問 新城 清 相談役 鳩間 昇 幹事長 堀迫憲介
 相談役 知念清吉 支部長 高嶺方祐 会計 知念ノリ子
 相談役 具志堅興栄 副支部長 高那真清 外会員一同

連絡先 〒907-0004 石垣市登野城435 - 1 電話0980-82-5157 高嶺方祐



祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会
九州支部 一瀬 悅朗
支部長 蔵園 有生
副支部長

〒814-0171 福岡市早良区野芥6-58-14
TEL 090-8836-9969



琉球古典音楽野村流保存会
竹絃会(安富祖竹久門下会)

相談役：喜瀬慎仁・金城タケ子・勝連繁雄・比嘉康春
桃原廣政
会長：渡久山英男
副会長：仲村一史・新垣 浩
書記：大城 聖 会計：稻野辺良一

師範・教師会

教 師

祝 第八回琉球古典音楽の会



琉球箏曲保存会

相談役
上宮上子
ノノ子
地城原子
尚光綾子
尚子

会長 山内好子
副会長 中村美智子
ノノ喜久村子
書記 長田綾子
会計 上間千枝子

◎光史流太鼓保存会



師範 具志なおみ太鼓東京練場

住所 〒901-0153 沖縄県那覇市宇栄原2-17-10-2
TEL:090-5477-6220

東京練場代表 〒131-0046 東京都墨田区京島1-50-12
中村文子
TEL:090-7009-8722

おめでとうございます



琉球古典音楽野村流保存会

第八回琉球古典音楽の会

沖縄横笛協会



関東在住教師・師範一同

- 師範 前田 裕美 小平市鈴木町1-371-11 連絡先: 090-3530-4997
師範 宮良 政子 新座市新座2-1-7 連絡先: 080-6771-5155
師範 鈴木 智子 厚木市愛甲2-11-1-202 連絡先: 090-9244-1397
教師 湯浅 満里子 中野区弥生町2-2-10 ハウゼン川本2-102号
教師 杉田 直子 さいたま市桜区田島3-25-9-204 連絡先: 080-3120-6434
教師 大塚 修一 昭島市中神1171-48

沖縄横笛協会ホームページ <http://okinawa-yokobuekyoukai.com/>

祝 第八回琉球古典音楽の会

◎琉球箏曲保存会 関東支部

顧問	間照屋芳子	相談役土屋富美
顧問	宮城秀夫	相談役小西睦子
顧問	水谷亮介	相談役大城貞吉
支部長	北村澄子	幹事兼書記深沢均
副支部長	神谷ケイ子	幹事兼会計仲宗根美花
幹事	川崎育恵	幹事兼監査大城朝子
幹事	寺本さやか	

◎琉球箏曲保存会関東支部

北村澄子研究所

師範 北村 澄子
教師 寺本 さやか 新人賞 深沢 均
住所: 東京都東久留米市弥生1-2-37
tel (042) 468-8004

神谷ケイ子研究所

師範 神谷 ケイ子
優秀賞 大城 朝子 新人賞 宜蘭 松都
優秀賞 仲宗根 美花 神谷 純子
住所: 東京都足立区青井1-18-3
tel (03) 3840-8578

川崎育恵研究所

師範 川崎 育恵
住所: 東京都杉並区井草1-14-6 A206
tel (03) 5932-6312



沖縄語を話す会・東京

沖縄の文化の根底にある「うちなーぐち」を次世代へ継承するため、言葉の勉強をしております。沖縄県外の方も歓迎しております。

勉強会：毎月第1、3土曜日 13時半～16時半（見学無料）

会 場：品川区大崎3-6-11-312

事務局：<http://www.wwq.jp/p/> tel&fax 044-988-8065 国吉真正



臨済宗南禅寺派 寶勝寺

〒193-0935 東京都八王子市大船町34

電話：042-661-6193 Fax：042-673-3395

E-mail：hoshoji@kossan.jp LINE：hoshoji



豊富なノウハウと信頼の実績

昭和32年創業

大城建設株式会社

大城建設(株)一級建築士事務所

代表取締役
一級建築士

大城 朝夫

本社 東京都板橋区泉町27-15

★板橋区耐震改修登録業者★

支店 東京都板橋区志村1-20-6

特定建設業許可 東京都知事(特-29)第887号

TEL 03-3965-3002

一級建築士事務所 東京都知事第35902

FAX 03-3966-3002

宅地建物取引業免許 東京都知事(13)第22365号

<http://www.oshiro-kensetsu.co.jp>

経験豊富なスタッフが対応致します！

- 公共事業入札参加
- 新築工事
- 改築工事
- 耐震補強工事設計施工
- 沖縄料理店店舗内装工事
- バリアフリー設計施工
- 水まわりリフォーム

タイムスカルチャースクール講師
琉球古典音楽ボイストレーナー
琉球古典音楽野村流保存会師範
発声・口形・腹式呼吸法の指導

仲村善信研究所

090-9491-1993 (仲村)

那覇教室
(那覇市金城在)

東京教室(板橋区板橋)
連絡先：仲間まで
utasyami@yahoo.co.jp

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会中部北支部

師範 池原憲彦

住所 沖縄県中頭郡読谷村楚辺2137

電話 090-9782-5977

祝 第八回琉球古典音楽の会

琉球古典音楽野村流保存会中部北支部

師範 比嘉いづみ

<横浜教室> 横浜市中区桜木町3-9 横浜平和と労働会館 5Fロシア語教室

稽古日：毎月第2日曜日 tel : 090-6856-6643

祝 第八回琉球古典音楽の会

東京沖縄県人会 会長 仲松 健雄

会員募集 年会費 5000円（機関紙 購読料含む）

沖縄情報発信・機関紙「おきなわの声」購読料・年間3000円

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-11-2 城辺橋ビル2F

編集長 中村 孝 (090-5393-7853) 事務局長 大城 章男 (090-8558-2330)

喜扇本流宗家家元 東京琉球舞踊協会

川口喜代子琉球古典舞踊研究所
全日本舞踊連合会沖縄県代表参与
東京沖縄県人会副会長兼文化部長

会長 川口 喜代子

〒182-0025
東京都調布市多摩川7-1-20
(川口弘美方)

稽古日

市民プラザあくろす教室
(月曜:6時~9時) 調布市国領駅前

国分寺教室
(土曜:1時~5時) 国分寺駅前

大町ふれあいの家教室
(木曜:1時~5時)
調布市菊野台3-27-39

その他、初めての方大歓迎です

東京琉球舞踊協会

名誉会長 仲田 清佑

会長 川口喜代子

喜扇本流 川口喜代子琉球古典舞踊研究所
東京都調布市多摩川7-1-20(川口弘美方)
電話&FAX 042(486)0151

副会長 諸見 喜子

玉城流敏風喜翔の会 諸見喜子琉舞研究所
東京都町田市旭町3-19-3
電話&FAX 042(722)4886

副会長 川口 弘美

喜扇本流千歳会 川口弘美琉球古典舞踊研究所
東京都調布市多摩川7-1-20
電話&FAX 042(486)0151

理事 吉浜 久枝

吉浜久枝八重山民俗舞踊七峰会
沖縄県秦野市河原町1-23
電話&FAX 046(381)4663

理事 宮城 洋子

宮城洋子琉球舞踊研究所
東京都中野区弥生町2-52-8城西本社ビル301号 円水館
電話&FAX 03(5385)0580

理事 野原 千鶴

琉舞鶴之会 野原千鶴琉球舞踊研究所
神奈川県横浜市鶴見区梶山1-5-7-502
電話&FAX 045(584)1707

理事 藤原 悅子

真踊流 佳藤の会 藤原悦子琉舞道場
埼玉県熊谷市肥塚1210-9
電話&FAX 048(524)4969

理事 金城 康子
(代理 金城啓一郎)

玉城流康舞会 金城康子琉舞道場
大阪市西成区橋3-10-9
電話06(6657)2045 FAX 06(6657)3359

理事 平良 立子

琉球古典舞踊董心の会 平良立子琉舞研究所
埼玉県さいたま市緑区中尾1598-5(阿部方)
携帯 090(2143)3765

理事 新城 久美
(代理 宮里しげみ)

玉城流煌扇舞華の会 新城久美琉球舞踊道場
東京都江戸川区南篠崎町3-29-12-402(宮里方)
電話&FAX 03(3677)2513

理事 久保 賴野

宮城流豊舞会東京支部 久保賴野琉舞研究所
東京都立川市栄崎町2-1-6-13デジデンスティーズ201
電話&FAX 042(523)3972

理事 瑞慶山和子

真踊流佳端の会 瑞慶山和子琉舞道場
東京都多摩市豊ヶ丘1-53-3-201
電話&FAX 042(337)1489

理事 志多伯順子

志多伯順子琉舞練場
東京都練馬区西大泉2-22-29
電話&FAX 03(3922)0012

理事 濱田ひろみ

玉城流毒流の会 濱田ひろみ琉球舞踊研究所
東京都港区白金3-9-18-201
電話&FAX 03(5793)3068

事務局長 関 りえ子

玉城流喜天の会 関りえ子琉球舞踊研究所
神奈川県川崎市麻生区東百合ヶ丘2-20-15
電話044(966)8728 FAX 044(966)8298



玉城流喜天の会

会主 関りえ子

関りえ子琉球舞踊研究所



稽古場：小田急線喜多見駅徒歩 3 分

川崎市麻生区東百合丘 2-20-15 / 090-3342-8583



宇夫方路琉球舞踊研究所

稽古場 狛江市岩戸北 4-10-7-2F

一般 火・木／子どもクラス 金

厚木カルチャー 第2第4月 13:00~15:00

03-3489-2246(M.A.P.) / ubukatamichi@lince.jp



関優子琉球舞踊研究所

稽古場 厚木市上依知 1390-7

かしわ台教室 水 15:00~17:00

春日部カルチャー第2第4金 12:00~14:30

046-245-5248

※稽古日・時間等お気軽にお問い合わせください。

祝 第八回琉球古典音楽の会



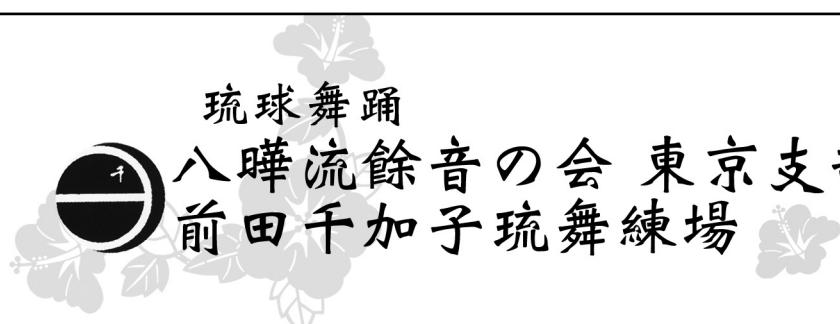
かず
真踊流 佳瑞の会

瑞慶山和子琉舞道場

会主 瑞慶山和子

〒206-0031 東京都多摩市豊ヶ丘1-53 ヒルサイドテラス3-201
TEL・FAX 042-337-1489

事務局 大和田文子 TEL・FAX 042-371-7660



家元 前田千加子



本部 〒902-0066

沖縄県那覇市大道173

電話 098-884-1262



師範 浜口佐代子

〒359-0021
埼玉県所沢市東所沢2-47-12-501
携帯 090-2427-6949
練場 世田谷区経堂・新代田

教師 赤嶺奈津子



〒108-0074

東京都港区高輪3-14-41-202

電話 03-6277-0701

携帯 090-1943-1636



教師 赤嶺真希

〒141-0022
東京都品川区東五反田4-7-20
相生ビル1F
携帯 080-9033-0225
練場 品川区東五反田

祝

第八回 琉球古典音楽の会

宮城洋子琉球舞踊研究所



主宰 宮城 洋子

稽古日・・・火曜日・土曜日

PM4:00~PM9:00

住所 〒164-0013
東京都中野区弥生町2-52-8 城西本社ビル3F
TEL/FAX 03-5385-0580



琉球舞踊
ちょう よう りゅう
重 踊 流



<http://www.choyoryu.com>
東京都練馬区小竹町 2-42-15
TEL/FAX: 03-3972-2560

宗家
志田房子



二世宗家
志田真木



志扇三恵の会
会主 井口三恵子



志扇美智の会
会主 砂邊美智子



師範
波照間 永子



師範
姫野 多美



教師
津波 ありさ



教師
前田 恵



教師
土屋 奈奈



教師
吉田 恵美子



教師
丸山 洋子



玉城流煌扇舞華の会

新城久美琉球舞踊道場

会主 新城 久美

〒905-0501 沖縄県国頭郡伊江村字東江上370
TEL (0980)49-5839 携帯 090-1880-4175



玉城流煌扇舞華の会

宮里しげみ琉球舞踊道場

教師 宮里 しげみ

〒133-0065 東京都江戸川区南篠崎3-29-12
クリスタルハイム瑞江402
TEL/FAX 03-3677-2513



玉城流煌扇舞華の会

新城美香琉球舞踊道場

教師 新城 美香

〒271-0067 千葉県松戸市樋野口551
パークハイツ102
TEL/FAX (047) 366-5701

祝 第八回琉球古典音楽の会



千葉支部

児玉せつ子沖縄舞踊研究所

師範 児玉せつ子
門下生一同

稽古場／〒274-0805 船橋市二和東2-3-52
TEL 080-3018-2677

出張稽古／宮野木会館 千葉市稻毛区宮野木町1192

玉木流 琉装・髪結い

水町カヨコ研究所

師範 水町カヨコ

〒350-1138 埼玉県川越市中台元町1-6-5
TEL 049-241-5265 携帯電話 090-8519-8201

師範	神藤 由紀子	神奈川県横浜市	TEL 090-7801-8609
師範	前川 みちこ	東京都杉並区	TEL 090-4131-9952
教師	宮城 夕ヶ	東京都北区	TEL 090-4378-4452
教師	矢澤 光子	埼玉県ふじみ野市	TEL 049-263-6781
教師	入澤 紀	埼玉県さいたま市	TEL 048-873-0873
教師	長谷川雅美	埼玉県川越市	TEL 070-5086-2812
教師	国吉梨枝子	東京都板橋区	TEL 080-1044-2931
教師	近田クニ子	埼玉県坂戸市	TEL 049-284-2677
教師	有馬 啓子	東京都板橋区	TEL 090-1436-5006

稽古日 毎週火曜日 午後1時～6時 稽古場 ウエスタ川越(公民館)



藤原悦子琉舞道場

会主 藤原悦子

稽古日 熊谷道場 火・金・土曜日 13:00～16:00
読売文化センター川越教室 月曜日 10:30～12:30
〒360-0015 埼玉県熊谷市肥塚1210-9 TEL・FAX 048-524-4969

祝 第八回琉球古典音楽の会

渡部照子琉球舞踊研究所

〒243-0201 神奈川県厚木市上荻野5634
携帯 090-2447-3825

国内でも海外でも。

旅行にいくなら 沖縄ツーリスト

沖縄ツーリスト 東京支店

〒105-0013 東京都港区浜松町2-8-14 浜松町TSビル1階

【営業時間】(平日) 9:30~18:00 (土) 9:30~15:30 (祝日) 休み

TEL 03-5408-5201

**OTSレンタカー
ニュージーランド開設。**

南島の美しい街「クイーンズタウン」にオープン

UK flag

Queenstown building photo

税理士法人 YS 東京中央会計 会長

(株)銀座電子計算センター 代表取締役
東京沖縄県人会 最高顧問
東京琉球舞踊協会 名誉会長
関東伊是名郷友会 会長
那覇商関東同窓会 名誉会長
関東沖縄経営者協会 顧問

仲田会計事務所

所長 税理士 仲田 清祐

連絡先

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-39-7-1002
TEL & FAX 03-3418-4877

黒潮総合法律事務所

弁護士 日高 章 民事・相続全般

〒101-0046 千代田区神田多町2-7-3 三好ビル6F
TEL 03-3251-7090 FAX 03-3251-7094

洲鎌合同司法書士事務所

代表司法書士 洲鎌一彦 登記全般

〒101-0046 千代田区神田多町2-4 第二滝ビル6階

関東伊是名郷友会

相談役	会計監査	理	理	理	理	理	理	理	理	事務局長	副会長	副会長	会長
仲田清一郎	宮城早苗	小泉ケイ子	宮城ケイ子	五ノ坪すえ子	松丸清美	末吉正美	名嘉充夫	前川修	伊礼史雄	名嘉靖仁	前川厚	上里順政	仲田清祐

事務局: 〒253-0006 神奈川県茅ヶ崎市堤19-7 TEL & FAX 0467-52-8171

あとがき

「第八回琉球古典音楽の会」副実行委員長
日高 桃子

「第八回琉球古典音楽の会」実行委員会

「第八回琉球古典音楽の会」開催に際し、沖縄から足を運んでくださいました諸先生方、関東在住の舞踊家の諸先生方、賛助団体と本支部の会員・スタッフの皆様、そして広告掲載をいただきました個人・団体の皆様に心より御礼申し上げます。

創立四十周年の本公演には研修会発表演目が新たに加わりました。この研修会は、関東支部の会員数、教師・師範数が増えていくなかで古典音楽の高い技量と教える立場に求められる知識を学ぶ機会を作りたい、との思いから始まりました。内容としては、舞踊や組踊の地謡を見据えつつ、まずは口頃ふれることの少ない歌三線のひとつひとつの節と琉歌の理解を深めることからスタートしました。講師の新垣俊道先生のご指導のもと、歌三線の泉が豊かに広がっていくのが感じられる、大変学ぶところの多い会となりました。

今回発表できなかつた曲は次回の公演や会員個々の指導・発表の機会に取り入れることによって、その恩恵が一般会員の隅々にまで届くものと思います。沖縄との交流が各地で深まりつつある昨今ですが、念願であった研修会は、まだやっと始まつたばかりです。

実りある時間を少しでも多くの皆様と共に発展させていけるよう、今後とも皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

司会	牧志寿子
舞台監督	比嘉義勝
プログラム企画	小西睦子
プロダクション制作	柄木企画

おいしい幸せ
オキコ

昭和22年創業より
守り続けているのは、
皆様の幸せづくり

安全で安心な
「おいしい幸せ」を
食卓にお届けします

www.okiko.net



主 催

琉球古典音楽野村流保存会 関東支部

第八回琉球古典音楽の会実行委員会

TEL : 090-4139-3434(小西)

Mail : sansin109109@yahoo.co.jp

URL : <http://www.nomuraryu-hozon-kanto.com>

後 援

琉球古典音楽野村流保存会 琉球箏曲保存会

沖縄タイムス社 東京沖縄県人会 東京琉球舞踊協会